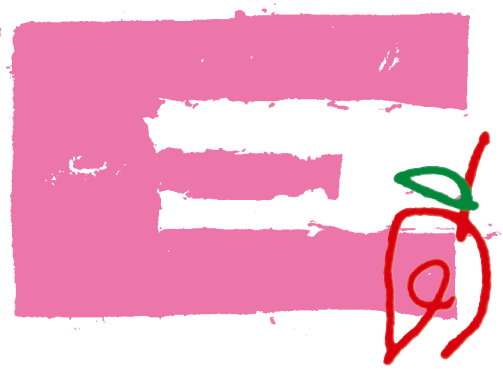




BAN ROM SAI TIMES 「ディー」

ディー = タイ語で
「いいね!」という意味です。

Vol.20

ありがとう! みなさまのおかげで 20年をむかえます。



ガジュマルの木を植えたあの日から20年。

振り返るといろいろな思いがこみあげてきます。

悲しかったこと、嬉しかったこと、それを栄養に育ったバーンロムサイ。

これからもガジュマルの木に見守られ、ゆっくり歩みつづけます。

この一年、こんなことがありました。ban rom sai's calendar 2018

- 1月** 新しい祠の祈禱
木製の祠がシロアリに食われてしまい、新しく鉄筋コンクリートの祠を建てました。
- 2月** 卒園生スラチャイ
ホシハナヴィレッジで働き始める
ホーム避難訓練
- 3月** スポーツ大会
(卓球・バートン)
競技だけではなく、準備や審判にも参加することで、役割を分担し、自分の担当を全うする、ということをお学びました。
- レスキュー訓練
村の子どもたちと一緒に防災について学び、火災訓練を行いました。
- チェンライ合宿
夏休み、男子は6泊7日、女子は3泊4日の合宿へ。
チェンライの地元チームとも交流し、サッカーとバレーボールを楽しみました。
- 4月** ホームでソングクラン
(タイの新年)の水掛け

ダムファ
ソングクランの時期に行う年長者に感謝の気持ちを伝える儀式です。

5月 新入部員
幼稚園、小学校低学年の子どもたちもロムサイFC。女子バレーボールの練習に参加し始めました。

ヌックニクがおじいさん、おばあさんの家に引き取られる

新学期
ドームは幼稚園に入園。フオン、オームシン、テンモー、ウツディーは小学校、ネンは中学校、ニサーは高校に入学しました。他の子どもたちもそれぞれ進級し、新生活が始まりました。

麻薬撲滅キャンペーンナメント
(WING41 TOURNAMENT 2018)
14歳以下の部でロムサイFCが準優勝

7月 地域のサッカートーナメント 10歳以下の部で
ロムサイFCが3位入賞

8月 ラムヤイ(竜眼)豊作
バーンロムサイの庭にもたくさん
のラムヤイがなり、休みの日には
収穫に精を出しました。

9月 ペンとスタッフのダム 浦和レッズハートフル
クラブのイベントに参加
浦和レッズに招待していただき、
日本でのイベントに参加しました。
日本のサッカー少年たちとの
交流、試合観戦など、一生の
思い出ができました。

10月 ホシハナヴィレッジで
アルバイト
年長の子どもたちが秋休みを
利用してホシハナヴィレッジ
でアルバイトをしました。ペンは
お金を貯めて、卒園後に
バイクが買いたいそうです。

チェンライ合宿
小中高校生 後期始まり
ペンとペンは高校最後の学期が始まりました。

11月 幼稚園 後期始まり
ピーマイがナーサリーに
入園しました。

12月 オムゴイー郡山岳民族支援プロジェクト
他団体と共同で行っている山岳民族への物資支援。
今年は、ペン、ベン、ベツが参加。初めて参加したペンは
山の子どもたちとの交流が心に残ったようです。



長年にわたり競技場の外でもスポーツマンシップを発揮しているアスリートや団体を表彰する「HEROES AWARD 2018」を浦和レッズハートフルクラブが12月に受賞しました。
浦和レッズハートフルクラブは長年バーンロムサイを訪れ、ロムサイFCの子どもたちにサッカーはもちろんのこと、思いやりやチームワークの大切さを教えてくださっています。バーンロムサイ開設当初、まだまだ根強かったHIV/AIDSへの差別や偏見が、サッカーを通して少しずつ払拭されていますが、これは浦和レッズハートフルクラブの力によるところも大きく、今回はこうしたバーンロムサイに関わる活動が評価され受賞されました。



tart 報告

子どもたちに「表現することの楽しさ」を肌で感じてもらいたいという趣旨で、アーティストのタカノ綾さんと笠井麻衣子さんがバーンロムサイを訪れ、子どもたちと紙粘土で想像上の動物を作ったり、そしてその動物の家や友達を想像しながら絵に描く、というワークショップを開催していただきました。

彼らがチェンマイでの滞在や子どもたちとの交流からインスピレーションを受けて制作した作品が、11月にバンコクで展示販売されました。「ART TREE」と名付けたこのプロジェクト、日本国外での展覧会は初めて、タイのみならず、+artの活動を知っていただく良い機会となりました。

アーティスト、ギャラリーの方々、場所を提供くださったBoy Rikyuを通じ、国や人種などの垣根を超えた、楽しく優しい「つくり出す力」の輪が広がりました。

*作品の売り上げはBan Rom Sai Children's Homeに寄付いただきました。



タカノ綾「観察、多意識の上を日の光が踊る」
©2018 Aya Takano/Kaikai Kiki Co., Ltd.
All Rights Reserved. / photo : Ken Kato



笠井麻衣子「生まれた場所で花を編む」
©2018 Maiko Kasai / yuka tsuruno Co., Ltd.
All Rights Reserved. / photo : Ken Kato



banromsaiプロダクツの企画展

2018年も多くのギャラリー、店舗の方々のご厚志により下記の企画展を開催しました。
(敬称略/会期順)

●東京・銀座/伊東屋 ●愛知・名古屋/or dans le sable ●長崎・波佐見/monné porte
●鹿児島・鹿児島/White Gallery ●東京・三鷹/ティリーズ ●大阪・池田/café & gallery
Phteah ●長野・信濃町/LAMP ●東京・渋谷・大阪・梅田/IDEE SHOP VARIÉTÉ ●長野・
信濃町/モトボンヤ ●北海道・札幌/Siesta Labo. ●東京・新宿/高島屋新宿店 ●神奈川・横浜/
高島屋横浜店 ●鹿児島・加治木/ギャラリーDo-Ma ●広島・府中/游風里 ●京都・木津川/Lier 橋
●福岡・うきは/ぶどうのたね ●宮城・仙台/杜間道 ●愛知・名古屋/薬草labo. 藤 ●秋田・秋田/小松
クラフトスペース ●福島・福島/うえき 和・空間 ●神奈川・藤沢/高屋書店 ●北海道・札幌/ヒシガタ
文庫 ●東京・日本橋/高島屋日本橋店 ●長崎・島原/アトラボタカセ ●東京・荻窪/Art+stellas
器物家(アステラスどうぐや) ●神奈川・横浜/そごう横浜店 ●鳥取・米子/青杏十 ●愛知・飛鳥村/
united bamboo ●神奈川・川崎/hitelas ●東京・銀座/銀座ロフト ●兵庫・神戸/AO ●奈良・
奈良/Punchi Lamai ●東京・恵比寿/アルフレックス東京(W STYLE Charity Market)

タイ・バーンロムサイ財団 会計報告

会計期間：2017年9月1日～
2018年8月31日

収入	NPO法人バーンロムサイジャパンからの寄付金	14,256,438円
	タイ国内からの寄付金	3,730,248円
	その他収入	2,361,695円
	収入合計	20,348,381円
支出	教育関連費	214,190円
	生活関連費	4,278,051円
	医療費	66,400円
	ホーム人件費	10,126,856円
	ホーム運営費	1,206,426円
	修繕費・光熱費	1,408,366円
	遠距離通学のための車両費	974,110円
	雑費その他	723,599円
	支出合計	18,997,998円
	当期収支差額	1,350,383円

*医療費に関連して、国連NGO OXFAMよりHIV判らびに3か月に1度の検査について支援を受けています。
*今年度より、支出経費振り分けを変更しています。※1/ページ=3.39円

Ban Rom Sai Children's Home

www.banromsai.jp

写真日記

www.banromsai.jp/photo_diary



@バーンロムサイ

banromsai

卒園生の一人が母親になりました。

昨年8月、3歳から18歳までの15年をバーンロムサイで暮らした二人の女の子が21歳で母となりました。HIVに母子感染し生まれてきた彼女が元氣な男の子を出産、「バーンロムサイの初孫の誕生」です！

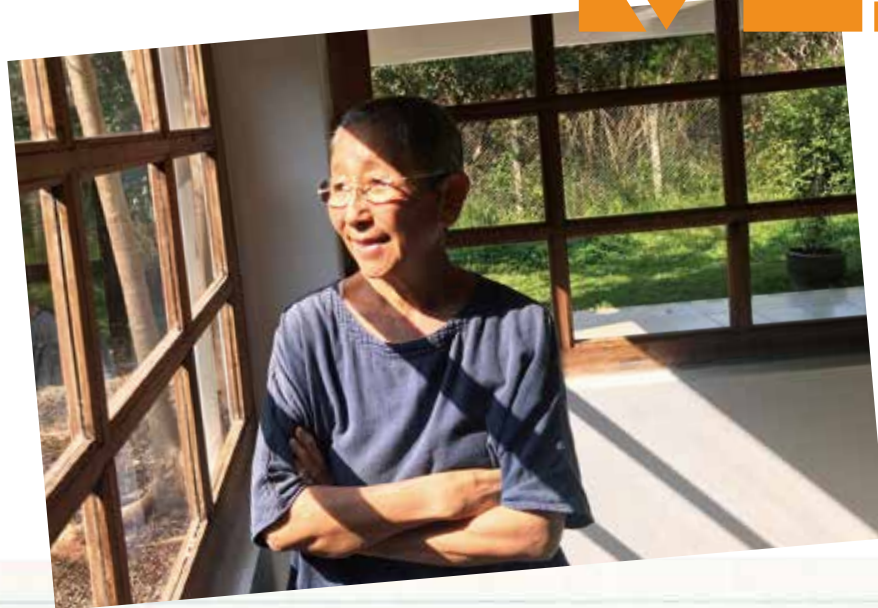
彼女が生まれた1990年代の終わりは、タイ国内の感染者数は約100万人、母子感染した孤児は7万5千人、感染した人たちの多くは10年以内にエイズを発症、発症したらほぼ確実に命を落とすと言われていた時代でした。

3歳の時、バンコクの孤児院からバーンロムサイに入園。18歳で卒園した後は近くのアパートに住み、隣接するhoshihana villageでスタッフとして働いていました。その後、小さいときから子どもが大好きだった彼女は、介護師の資格を取り、バーンロムサイで保母として働いていました。しかし一度は市内に住み働きたいと辞職し、町のレストランに就職。そこで知り合った男性と暮らしはじめ、赤ちゃんを授かったのです。

幼い頃からHIV治療でお世話になっている主治医に出産にむけたアドバイスをもらい、帝王切開で無事出産しました。感染の可能性を限りなくゼロにするため、母乳は与えていません。出産間際まで働き、出産三日目には退院、婚姻届と出産届を提出し、夫とその母親、赤ちゃんの4人で同じ屋根の下に暮らし、すでに働きに出ています。感染していても母親になれると言ったことがどんなに他の子どもたちの励みになったことでしょう!!今年一番の嬉しいニュースです。

彼女は小さな頃からなりたいかった「お母さん」になりました！
将来の「大人を育てる」大切な仕事「母親業」、大変な仕事ですが焦らず、楽しんで欲しいです。

from iwa



P4-5に掲載している絵は、20年目を迎えたバーンロムサイをイメージして画家・イラストレーターの山口洋佑さんが描いてくださいました。まだバーンロムサイを訪れたことのない山口さんですが、本や映像資料、私たちの話を聞いてイメージを膨らませて描いたものです。中でも『ガジュマルの木の下で』という本の中に出てくるピチットという子に強い印象を受け、「絵は亡くなったピチット君をイメージして描きました。絵が好きだったとのことなので、多分、今もガジュマルの木の下で描いているのではないかと思います。猫はなんとなくここに集まる子どもたちを人知れず見守っている神様のようで、子どもたちをそっと包み

込む自然を象徴するようなイメージで描きました」と、絵に込めた思いを添えてくれました。ピチットは2000年に4歳で入園し2002年に亡くなりました。とても雨が好きな子でしたが、ちょうど、完成したこの絵を見てピチットのことを思い出していたら、大つぶの雨が空から落ちてきました。いろいろな人たちに見守られながら、亡くなった子も、元気にホームで暮らしている子も、巣立っていった子も、みんながガジュマルの木の下に集まるバーンロムサイでありたいと願っています。



バーンロムサイ 代表名取美和

試行錯誤 紆余曲折の20年、気がつけばガジュマルの木はしっかりと根を張り、枝を伸ばし、葉を茂らせています。
20年間の応援に心からありがとう、次の10年に向け歩き始めます。

まだまだみなさまの応援が必要です。

バーンロムサイでは寄付だけに頼らない運営を目指し、「家業」としてコテージリゾート運営やものづくりに取り組んでいます。
多くの方にご協力いただき、コテージの棟数を増やしたり、企画・生産管理において工夫を重ねるなど収入を増やす努力を続けていますが、今後活動を発展させ、また卒園生のサポートを続けていくにあたり、バーンロムサイの理念に共感し、長い目で私たちの活動をご支援いただけるサポーターを引き続き募集します。

マンスリーサポーター

クレジットカードにより毎月1,000円から継続的にご支援いただく方法です。
https://www.banromsai.jp/supports/

賛助会員

年会費制で継続的にご支援いただく方法です。個人会員は一口10,000円から、企業・団体会員は一口50,000円から。お支払い方法は下記からお選びください。

1) ゆうちょ銀行での振込

郵便振替用紙をご利用になり、以下の口座へお振込ください。

【口座記号番号】00210-0-54051 【口座名称】NPO法人 バーンロムサイジャパン

*通信欄に「賛助会費として」とご明記下さい。また領収書をご希望の方は「領収書発行希望」と領収書宛名をご記入下さい。

2) 銀行振込

ホームページにある会員登録フォームにご記入のうえ、下記へお振込みください。

*会員登録フォームはこちら https://www.banromsai.jp/submit/bank_s.cgi

【銀行名】三井住友銀行 【支店名】鎌倉支店(店番号933)

【口座番号】普通 0153733

【口座名称】特定非営利活動法人(トクヒ) バーンロムサイジャパン

3) クレジットカード

https://www.banromsai.jp/supports/

寄付

1回ごとのご寄付もお受けしております。お支払い方法は下記からお選び下さい。

1) ゆうちょ銀行での振込

賛助会員の振込先に同じ。

*通信欄に「寄付金として」とご明記下さい。

2) 銀行振込

賛助会員の振込先に同じ。

*登録フォームはこちら https://www.banromsai.jp/submit/bank.cgi

3) クレジットカード

https://www.banromsai.jp/donation/



遊びごころ と心地よさ



あざやかな色、見たことのない美しい模様の古布、
藍染、手織り、残布などを再利用したさき織り、
少数民族につたわる手仕事は、
まさにローカルカラーそのもの。
作ることにも、持つことにも、ストーリーがあります。

開設当時に比べ、AIDSの発症を抑える治療薬の開発、普及のおかげで、子どもたちが
大人に成長できる可能性が見えてきた2003年、将来の子どもの自立を助け、同時に
ホームの自立した運営を目指し、バーンロムサイのものづくりが本格的にスタートしました。
敷地内の植物を使って草木染めに挑戦したり、寄付でいただいた織り機を使ってさき
織りを始めたり…活動を続けていくなかで多くの方のご協力をいただき、少しずつ
バーンロムサイのものづくりが形になっていきました。
現在は常設店舗、オンラインショップ、また日本・タイでの企画展の開催を通して、
banromsaiの製品を紹介しています。



banromsai
original



買って支援

products



History

- 2001 敷地内の植物を使った草木染めからバーンロムサイのものづくりがはじまる
- 2003 旧幼児棟を縫製場とし、縫製と織りを本格的にスタート
- 2005 オンラインショップをスタート
- 2007 鎌倉ショップがオープン
- 2015 hoshihana village内にhoshihana shopがオープン
- 2018 バンコク・サイアム高島屋にバーンロムサイの常設店舗がオープン

ものづくりの収益は、バーンロムサイの運営費として使われるだけでなく、バーンロムサイを18歳で卒園して
いく子どもたちの職業訓練、あるいは就労の場となって彼らの自立を支えています。

banromsai kamakura shop

神奈川県鎌倉市由比が浜1-10-3 [blog](http://banromsaishop.jugem.jp/) <http://banromsaishop.jugem.jp/>

hoshihana shop

cottage resort hoshihana village内
246 Moo 3 T.Namprae, A.Hangdong, Chiangmai 50230 Thailand

banromsai shop
at Siam Takashimaya

Siam Takashimaya, 4th floor
299 Charoen Nakhon Road, Khlong Ton Sai, Khlong San,
Bangkok 10600 Thailand

online shop www.banromsai-shop.com [@banromsai](https://www.facebook.com/banromsai) [@banromsai](https://www.instagram.com/banromsai)



cottage resort



泊まって支援

chiangmai, since 2004



hoshihana
village

たまには大きく深呼吸

風、光、雨、すべてが自然の恵み。
身も心も、ゆったりとした時の流れのなか、
自然をそのままいかしたコテージで、
この場所の息づかいを感じます。

History

- 2004 ジョルジオアルマーニジャパン社の支援でプールが完成。最初のコテージ「すいかハウス」がオープン、cottage resort hoshihana villageがスタートする。
“ものづくり”とともにバーンロムサイの家業に。「買って支援、泊まって支援」がキーワード。
- 2009 hoshihana village のプールが舞台となった映画「プール」公開
- 2014 sala (東屋風のオープンスペース、ヨガ等に利用) がクラウドファンディングで完成
- 2016 レシピ本「ホシハナヴィレッジの美味しいタイ料理」出版
- 2019 新コテージオープン予定

hoshihana villageの収益は、バーンロムサイの運営費として使われるだけでなく、バーンロムサイを18歳で卒園していく子どもたちの職業訓練、あるいは就労の場となって彼らの自立を支えています。
現在、ホームを巣立った子どもが、スタッフとして働いています。

cottage resort hoshihana village

www.hoshihana-village.com [@Hoshihanavillage](https://www.facebook.com/Hoshihanavillage) [@hoshihanavillage_official](https://www.instagram.com/hoshihanavillage_official)



banromsai Under The Tree

大きな木の下のものづくり展

～チェンマイから、遊びごろと心地よさがつまった雑貨と衣類が届きます～

開園当初、ホームのユニフォームだったタイシャツを庭の草木で染めたのが、バーンロムサイのものづくりのはじまり。その後寄付していただいた工業用ミシンを1台、旧幼児棟に置いて、そこが縫製場となりました。

それから15年、縫い子さんをはじめ、多くのボランティアやスタッフによって根をはり、販売して下さる多くのギャラリー、買って下さるみなさまの力が土となり、水となり、たくさんの温かい想いがお日さまとして照らし、banromsai という一本の木に育ちました。

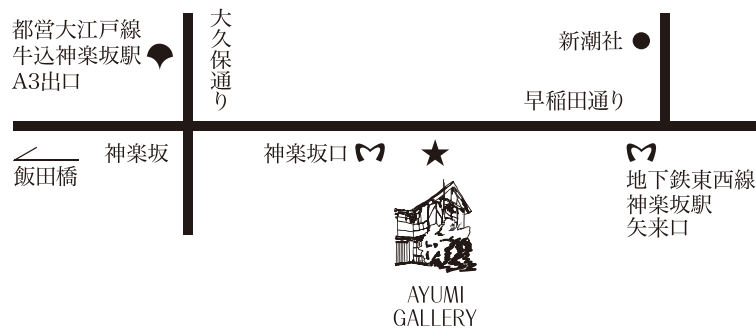
2019年、開園から20年。

丁寧な手仕事で作られた小物と、チェンマイのふんわりとした空気をまとった春の衣類も届きます。神楽坂の大きな木のある素敵なギャラリーで、みなさまとお会いできるのを楽しみにしています。

《会期》2019年2月8日(金)～2月13日(水)

《場所》AYUMI GALLERY 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114

《時間》11:00～19:00 ※最終日13日(水)は17:00 閉場



Ban Rom Sai Children's Home 開園 20 周年イベント

《会期》2019年9月20日(金)～24日(火) (予定)

《場所》銀座・伊東屋 G.Itoya B1 Inspiration Hall

Ban Rom Sai Children's Home 開園 20 周年を記念してイベントを開催します。

詳細につきましては、バーンロムサイのウェブサイトや facebook 等にてお知らせいたします。

1999年11月、AIDSで親を亡くし、自らも母子感染した子どもたちのための施設として始まったバーンロムサイ。開設当初から多くのボランティアが日本からチェンマイにかけつけ、予測不能の事態にあたふたする数年があつという間に過ぎていきました。

抗HIV療法を取り入れたことで、子どもたちの命がつながり、未来に希望が持てるようになった2003年、日本からの支援を継続的なものとするため、その基盤としてNPO法人バーンロムサイジャパンを設立しました。

少しでも自立した運営を目指し、ものづくりやゲストハウスの運営を始め、「買って支援、泊まって支援」という社会貢献のかたちを提案しています。また図書館やスポーツ活動を通した、周辺地域のサポートにも目を向けています。

今年で20年。振り返るといつも根底にあったのは単にタイの子どもを援助するという一方的な関係ではなく、私たちも多くを学び、得ている、という楽しむ気持ち、だからこそ、この20年手探りながらもまっすぐに継続できたのだと思います。

6歳だった子が今は26歳。昨年から4人の卒園生が体調を崩し助けを求めてきました。快復後、hoshiana villageに就職した子もいますが、何かあった時には安心して戻れる実家でありたい、そのためには先の10年、20年に向け歩き続けたいと思います。

今までさまざまなかたちで関わり、手を差し伸べ、応援してくださったみなさまに心から感謝をこめて、お礼を申し上げます。



NPO法人バーンロムサイジャパン
代表 名取美穂